



EL SALVADOR

学校名：日光市立日光小学校

氏名：馬場 吉郎

[担当教科：小学校全科]

● 実践教科等：家庭科、社会

● 時間数：5時間

● 対象生徒：小学校6年生

● 対象人数：25人

〔1〕 単元名

エルサルバドルってどんなところ

〔2〕単元の目的/目標（ESDの能力・態度）

- ・多様な文化や価値観に気づき、自分とは異なるものを認めようとする態度を育てる。（つながりを尊重する態度）
- ・エルサルバドルの実態を知ること、情報を一方的に受け入れることなく別の視点でとらえる必要性に気づくことができる。（批判的に考える力）
- ・国際社会における日本の役割を知り、自分達もこれからの国際社会の一員として努力し続けることが必要であるという自覚を育てる。（進んで参加する態度）

〔3〕ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性
公平性	連携性	責任性

- ・日本とエルサルバドルでは文化や習慣など様々な面で違いがあることに気づく。【多様性】
- ・国際社会の一員として日本の役割を理解し、自らのその一員であることを考える。【責任性】

〔4〕単元の構成

時限	本時のねらい、テーマ	学習活動・学習内容	使用教材	評価の 観点と方法
1、 2	【ププサを作って食べてみよう】 ププサを作って試食することで、日本とは異なる食文化を知り、海外への興味を持つ。(家庭科)	・ププサの作り方ビデオを見て、作り方を知る。 ・ププサを作ってみる。 ・ププサを試食する。 ・作り方、味、材料などを意識して感想を書く。	・ビデオ(ププサの作り方、音楽) ・ププサ材料 ・ワークシート	・ワークシートの記述 ・活動観察
3	【エルサルバドルってどんな国？】 写真や映像などから、様々な情報を見つけ出し、エルサルバドルについての知識を深める。(社会)	・エルサルバドルについてのクイズに答える。(2種類) ・写真を見て、わかったことをまとめ、発表しあう。 ・情報交換をして得たことをまとめる。	・絵はがき ・パワーポイント スライドクイズ ・ワークシート ・エルサルバドルのコマ、剣玉	・ワークシートの記述 ・活動観察
4	【エルサルバドルをもっと知ろう】 エルサルバドルの良い面悪い面を知り、多面的なものの見方の重要性に気づく。(社会)	・写真や映像から問題点を見つけ出し、発表する。 ・エルサルバドルが抱える問題について、自分たちなりの解決方法を考え、発表する。 ・情報交換をして得たことをまとめる。	・エルサルバドルの写真(銃や花売りの様子など) ・ワークシート	・ワークシートの記述 ・活動観察
5	【エルサルバドルで活躍する日本人】 海外で活躍する日本人の姿を知り、国際社会での日本の役割を考える。(社会)	・JICAの役割を知る。 ・JICA ボランティアや専門家の活動写真やインタビューを見る。 ・将来の自分に手紙を書く。	・エルサルバドルで活動する日本人の写真と映像 ・ワークシート	・ワークシートの記述 ・活動観察

〔5〕授業の詳細

0 時限目：【貿易ゲーム】

- ① 「ゲーム」のやり方を確認する。
- ② 「貿易ゲーム」を実際に行う。
- ③ ゲームをやってみて感想や意見を出し合う。

海外研修に行く前に、子ども達には何も知らせずに、7 月の授業参観で『貿易ゲーム』を実施した。世の中には格差があることを知り、そうした格差の中で問題解決の方法を探る経験を積みさせておくことをねらいとして実施した。

資源も技術もない国(グループ)が交渉して道具を手に入れることや、資源も技術もある国(グループ)の中には、他の国(グループ)を排他的に扱うところも出るなど、人間の性が出る場面もあり、立場の違う状況での意見交換として子ども達には今までにない体験ができた。

1、2 時限目：【ププサを作って食べてみよう】

- ① ププサの作り方ビデオを見る

エルサルバドルという国について勉強することは伝えてあったが、詳しいことは一切話をせず、「ププサ」についても、どんな料理であるのか、全く話をしないで想像だけを膨らませておいた。朝の時間などに、事前に白紙の紙に「私の考える『ププサ』」を書かせておいたので、作り方の映像を見る時は、高い関心を示していた。

- ② ププサを作る



ププサ作り(フライパンに2つ入る)



ププサ作り(焼くのは 10 数分)

生地をのばして具を詰めて焼くだけのレシピなので、すぐに取りかかることができた。しかし、予想より生地が厚くなり、焼くのに時間がかかってしまった。

- ③ ププサを試食する

できあがったものに、サルサ(ソース)をつけて試食した。生地が厚くなったことも影響して、生焼け状態で食べている子どももいた。こちらで予備に作っておいたものを食べてみると、自分が作ったものとは違うと感じていた。

- ④ 感想を書く

うまくできなかった子もいたが、トウモロコシ粉やサルサなど、普段食べているものとは全く違うものであることは強く認識できていた。

ココがポイント！

- ・ププサは事前に何度か試作してみて、学校の設備で一度に大人数で作れる方法を確認しておく。
- ・YouTube には現地での作り方を紹介した映像がたくさんあるので、自分自身の試作にも使えるし、今回のように、説明のために子ども達に見せると時間短縮になる。
- ・作業中は音楽を流すことで気分が盛り上がる。多くの子ども達が音楽はにぎやかで良い印象を感想に書いていた。

(児童の感想)

- ・ププサは小腹が空いた時にいいと思う。作り方は簡単だった。
- ・先生が作ったのはパリパリしておいしかった。想像していたものとはずいぶん違った。
- ・ププサの歌を聴いていると、エルサルバドルの人みんながププサのことを好きなんだなと思った。(日本人がおにぎりを好きなのと同じように。)

3 時限目:【エルサルバドルってどんな国?】

① エルサルバドルのウソホントクイズ

パワーポイントを使って、エルサルバドルという国名の意味、四季があるかどうか、火山があるかなどを○×形式で出題した。単純な問題であるが、意見の分かれる問題もあった。

(クイズ)

- 1: 国名「エルサルバドル」は、ここを最初に発見したスペイン人の名前にちなんでつけられた。
- 2: エルサルバドルも日本のように四季がある。
- 3: エルサルバドルも日本のように火山がある。
- 4: では、エルサルバドルで有名なイサルコ火山はAとB(画像提示)のどちら。

② エルサルバドルのウソホントクイズ2

エルサルバドルと日本の関係について①と同様に○×形式で出題した。日本のテレビ番組が放送されているか、日本のことをどう思っているか、日本はどのくらい援助をしているかなどについて考えた。日本のアニメが伝わっていることは、子ども達には驚くことであった。

(クイズ)

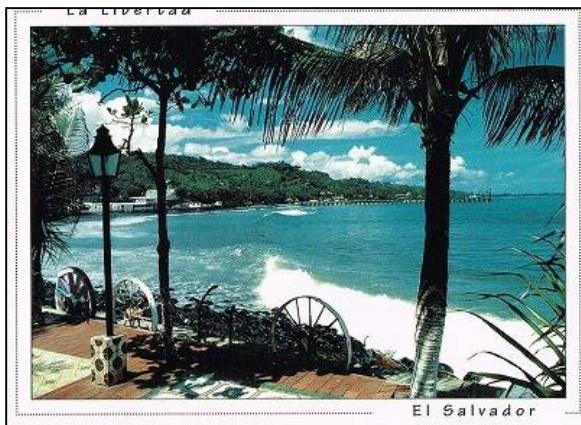
- 1: エルサルバドルでは、日本のテレビ番組が放送されている。
- 2: かつて、エルサルバドルはその勤勉さから、「中米の日本」と呼ばれていた。
- 3: 日本はエルサルバドルにあまり援助をしていない。

③ 自分なりのエルサルバドルをイメージする

担任から送られたエルサルバドルの絵はがきをもとにして、「私の考える『エルサルバドル』」を想像してワークシートにまとめる。絵はがきの他に、写真資料やおもちゃなどを自由に見させて想像させた。(このとき、写真資料はマイナス面が出ないものだけを提示した。)絵はがきは、その土地の良さを伝えるものなので、どの絵はがきも自然や文化や食べ物などの良い面を引き立てて写しているの、子どもの想像もポジティブなことが多かった。

ココがポイント!

- ・絵はがきを現地からスムーズに送るために、宛先やメッセージを宛名シールで作成しておき、現地では、それらと切手を貼るだけで投函できるようにした。
- ・絵はがきのデザインはできるだけ全員異なるようにして、自然・歴史・レジャー・食べ物など、現地の良さが伝わるものを送った。



エルサルバドルの絵はがき(ホテルで購入)



絵はがきの表面(切手の下の宛先などがシール)

④ お互いに意見を交流する

お互いに想像した「エルサルバドル」を伝え合い、共通点や自分が気づかなかった視点などを確認する。自分の想像を言葉で伝えることで、漠然と想像していたものがより鮮明になった。



写真を見て意見交換



細かく写真を見て話し合い



テレビに映した写真で説明

(児童の感想)

- ・エルサルバドルは明るくて楽しい国。
- ・果物も新鮮でおいしそう。一度行ってみたい。
- ・みんな陽気でユニークな人がたくさんいる。

ココがポイント！

- ・写真は子ども達全員がじっくり観察できるようにグループごとに同じものを印刷して配布。
- ・デジカメで撮影したものはA3に普通に印刷しても十分細かいところまで描写可能。
- ・使った印刷物は、次の授業で掲示物として活用。
- ・発表用にはデジタルデータをテレビで映す。

4 時限目：【エルサルバドルをもっと知ろう】

① 写真から問題点を見つける

警官、警備員、弾痕の残る壁などが一部

に何気なく写っている町の風景写真を見て、そこに共通するものを考えた。その後、スラム街や、路上の花売り、壁にある鉄条網などの写真を見ながら、これまで知らなかったエルサルバドルのもう一面について解説を聞くことなどによって理解を深めた。

② エルサルバドルの抱える問題点について自分達なりに考える

治安の悪さや貧困などの課題によって引き起こされる問題点や、これまで感じていた南国の良いイメージとの格差など、自分達がこれまで気づけなかったことについて、問題の原因や解決方法などについて、自分達の分かる範囲で考えてみた。前回まではこうした負の側面を意識することがなかったの、写真をたくさん見て、情報を一面でしか受け取っていないことに気づいた子もいた。自分なりにワークシートにまとめたことを元に、意見交換をして同じ気づきがあることを確認し合った。

③ まとめ

情報交換をして、自分が感じたことを同じように共有していることが分かった上で、意見をまとめた。多くの意見は、「危ない」「貧しい」という面を意識したものに変わったが、そうした面が全てではないことに気づいている子も多かった。



写真の共通点を相談



気づいたことを記録していく



前回の写真を背面に掲示

(児童の感想)

- ・昨日まで(前回の授業まで)は、「にぎやかでいいなあ。」と思っていたけれど、車に花を売りに来る人がいるくらい貧しい国なんだと思った。でも自然がきれいでいいところかな、とも思う。
- ・日本と比べるとかなり危なくて怖い国。
- ・いろいろにぎやかだと思ったが、所々危険であったり貧困があったり、いろいろ問題があると思う。

5 時限目：【エルサルバドルで活躍する日本人】

① JICA の役割を知る

社会の教科書に載っている JICA の活動などを紹介して、日本が世界の様々なところで、それぞれの地域の人々がより良く生活できるように支援をしていることを確認した。これまで貿易の学習などで、日本が世界と結びついていることは知っていたが、単に資金を援助するのではなく、その地

域の人たちが自立的に発展していけるようにしているという部分については、初めて知った子も多かった。

② ボランティア・専門家の活動を知る

JICA の活動が分かったところで、実際にエルサルバドルで活動する日本人の様子を紹介した。それぞれがどんな活動をしているかについて、写真を見せながら概要（防災教育、貝の養殖）を確認した。それぞれ、日本では当たり前のことが、海外にはないものとして重要な支援になることを理解した上で、実際に活動する日本人のインタビューを視聴した。海外で活動するきっかけや、そこでの苦労や喜びなどを実際に体験した人の話として聞くことのできる貴重なインタビューだった。

③ 将来の自分に手紙を書く

インタビューを見た後で、今回の学習のまとめとして将来の自分に手紙を書いた。これまで様々な学習で将来の夢などを考えたり文章にしたりしているので、こうした活動を知って、人の役に立ってほしいとか、自分のやりたい道に進んでほしいという素直な考えを残すことができた。



活動の様子を写真で確認する



何をする人が写真から想像する

(児童の感想：自分への手紙の抜粋)

3 お手紙(メッセージ)

大人になったら、青年海外協力隊のような
世界の人々を助けられるような人になってますか？
そんな大人になっていたらうれしいです。

3 お手紙(メッセージ)

今、あなたは、青年海外協力隊をやっていますか？
私は、2人の人を見て、なってみたいと思っていました。
ちがうことをやっているかもしれません。
でも、たまにもし機会があったら、
やってみてほしい。

〔6〕児童・生徒の反応/変化

・言葉の説明でなく写真を多用したことで、情報を自分で取り出そうという主体的な意識が生まれてきた。

・豊かな国、貧しい国、楽しい国、危険な国などの一面的な見方から、楽しい国だけれど危険な面もあるとか、明るくにぎやかなところだけれど貧しいところもあるなど、一つのものにもいろいろな面があることを言葉で表現するようになった。

・他の国の事情を詳しく知ることによって、自分のおかれている環境を別の視点から見られるようになった。(4時間目の児童の感想に『日本人は結構ぜいたくな暮らしをしていると思った。』という感想が見られた。)

・青年海外協力隊に関心を持ち、これまで知らなかった世界での活躍に、自分も関わりたいという意欲を持つ子どもが出てきた。(これまでは将来〇〇になりたい、という職業的イメージしかなかったが、人の役に立ちたいなどの夢を持てるようになった。)

〔7〕授業実践の成果と課題

海外研修で得たのは質量ともに素晴らしい数々の教材であったが、それをすべて使うことはできず、うまくセレクトすることは大変困難であった。今でもこれで良かったのかと思うことがある。

実際に授業を行ってみると、小学生にとって世界というものは未知のものであり、まっさらな頭の中に様々な情報を入れていくことの難しさや、ここで入った情報が今後のものの見方に大きな影響を与えるという重要さを実感した。

エルサルバドルについて良い面だけでなく問題点も知ることは、多面性という点からも重要と考えたが、うまく扱わないと一方の面だけが強く印象に残ってしまう危険性も感じた。これは、今後の実践で気をつけたい点である。一方で一つの国にも良い面悪い面があるということをとおして、子ども達が多様なものの見方を身につけるきっかけとなったと思う。

初めてのことが多く、今回の授業実践は課題もあったので、今後の実践で改善をしていきたい。

〔8〕参考文献(引用文献・参考資料)

- ・『新・貿易ゲーム』 開発教育協会 神奈川県国際交流協会、2003 年
- ・「YouTube 動画 PUPUSAS DE QUESO Y FRIJO(ププサの作り方ビデオ)」
〈<http://www.youtube.com/watch?v=e25GgVKAVsE>〉 OlgaOfficial、(2013 年 10 月 29 日アクセス)
- ・「YouTube 動画 A Mi Me Gustan Las Pupusas(私はププサが好きなのよ！:ププサ作りのBGM)」
〈<http://www.youtube.com/watch?v=bqjw7kYQyLo>〉 BARAHONA BAND DE EL SALVADOR、
(2013 年 10 月 29 日アクセス)
- ・「わたしたちの地球と未来 エルサルバドル」
〈http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H20/El_salvador.pdf〉愛知県国際交流協会、
(2013 年 10 月 13 日アクセス)
- ・『エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグアを知るための 45 章』 田中高(編著)、明石書店、2004 年

〔9〕使用教材(写真／図などの実物)



ププサ作り方の映像



エルサルバドルクイズスライド



インタビュー映像

〔10〕教師海外研修を終えて(感想・今後の展望)

今回の研修では、海外研修が自分自身にとって、とても有益な体験となった。いくらテレビや本を見て知識を得ても、実感として『感じる』ところまではなかなか難しい。しかし、今回の海外研修ではまさに『感じる』ところまで体験することができたと思う。特に現地の様々な人たちとの交流は、その国の良さを実感できる素晴らしいものであった。単なる旅行では気づかない部分まで深く理解できたのは、こうした人との交流にあると思う。

そして、こうした体験が、子ども達にもっと世界を知ってもらいたいという授業実践のためのモチベーションにもなり、また良い教材にもなったと思う。来年度以降、まだまだたくさん子ども達に授業をする機会があると思うので、今後も世界が多様であることや、多様な世界の中で生きる日本人について考えてもらえる授業をしていきたいと思う。